

index

2020〈第22号〉

- 医師連盟委員長挨拶
- 兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項
- 兵庫県医師連盟役員紹介
- 議員対談 参議院議員 高橋光男氏
- 郡市区医師連盟だより(神戸市医師連盟 東灘支部)
- 自民党との県予算編成に対する要望の回答
- 参議院議員 自見はなこ 活動報告

# 兵庫県医師連盟ニュース



発行所 兵庫県医師連盟  
 〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11  
 Tel 078-231-4114  
<http://www.hyogo-ishirenmei.jp>  
 編集責任者 松本 卓

## 医師連盟委員長挨拶



兵庫県医師連盟  
 委員長 松本 卓

「この度はあえて論じぬことを許さる。」「KOHROUを見る会」とその前夜の食事に

2020年6月6日、横田滋さんの訃報に接し、心から哀悼の意を捧げます。めぐみさんの帰国に全力を尽くすと言っておられた安倍晋三首相がご数年

あったのかと考えさせられる機会でもあり、兵庫県医師連盟の公式見解ではないとお断りした上で、私見を述べさせていただきます。

まず、加計学園問題。四国に獣医学部が十分に整備されていないことは理解するが、それならば、四国で医学部を併設する

4国立大学に獣医学部を併設することが合理的であり、医学部を併設されていない単科の獣医学部を新設したところで、真

に不足する分野を診てくださる獣医師が養成できるのだろうか? 森友学園問題は語るに値しないレベルの稚拙な話と考えるの

自己の集票のためのものであり、公職選挙法に抵触する可能性が極めて大であると考える。書き出すときりがながい、紙

面にも限りがあるので、最後は例の「アベノマスク」であるが、本日(6月6日)現在我が家にはまだ届いていない。あるマ

スク製造会社の逸話として、10億投資してマスクの製造ラインを整備すれば月産2500万枚の製造が可能とのこと、400億

を投じればこれまで中国製に依存していたマスクの国内生産シェアを一定量確保できることは明白であり、生産ラインの80%の補助金として支給する政策を3

である。またこのような緊急事態(国難)に際してはスピード感が最も重要であり、残念ながら現在の政権がそれを果たすことが出来なかったことは明白である。

最後になるが兵庫選出の西村康徳大臣ならびに盛山正仁厚生労働委員長は常に迅速かつ真摯な対応をしてくださったことを

明記し、お礼に代えさせていた

「上医は国を治す」との中国の古い教えもあり、医師連盟の活動の重要性を再認識した数ヶ月であった。

2020年7月7日追記  
 7月6日20時過ぎのNHKニュースにおいて井戸知事が国の方針に反して「医療従事者への慰労金は給付しない」との発言を受け、7月7日付にて松本

卓は井戸知事の後援会にあたる新生兵庫をつくる会の発起人リ

ストからの名前の削除要請と理事の辞任を通告したことをご報告いたします。

## 兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項

(1) 令和2年4月19日(日)に兵庫県医師会館で開催し、「令和2年度事業計画」、「令和2年度予算」及び「令和2年度会費賦課徴収」の3議案について、原案通り可決されました。

(令和2年度事業計画)  
 医師の政治力強化を図り、もって「国民皆保険制度の堅持」、「地域保健医療活動の強化」、「平等で安全な医療提供体制の確保」並びに「医療経営基盤の確立」等各種施策の実現のため政治活動を展開する。

一、政治活動  
 ① 県下首長・議員に対してのロビー活動展開。  
 ② 県選出国会議員はマンツーマン方式による。  
 ③ 郡市区医師連盟における地方自治体首長、選挙区県議会議員、市町議会議員へのロビー活動に対する支援。  
 ④ 兵庫県議会議員との医療政策に関する意見交換会の開催。  
 ⑤ 医療政策勉強会等の開催  
 ⑥ 兵庫県議会主会派に対する医療政策実現化に向けての県予算化要望。  
 ⑦ 兵庫県議会自由民主党保健医療推進議員連盟との連携強化。  
 ⑧ 選挙活動の展開  
 ⑨ 各選挙における医師の政治力(集票能力)を示すため、各地区(小選挙区等)での医師連盟推薦候補者の支援活動を強力に展開する。

二、広報活動  
 ① 県民並びに関係団体に対して、強く医師連盟の理念と医療政策を訴え、理解を得るよう努め、広く県民等を巻き込んだ世論の形成を目指す。  
 ② フォーラム等県民並びに関係団体等参加の集会開催。  
 ③ 医師連盟ニュースの企画・編集、定期発行並びに関係団体への配布。

三、対内活動  
 ① 医師連盟会員への医療政策の啓発とそれを実現させる為の政治活動への参画意識の昂揚を図る。  
 ② 医師連盟若手会員の育成。  
 ③ 医療政策を政治に反映させる方策の検討。  
 ④ 各関係団体との連携強化  
 ⑤ 関係団体との強固な連携のもと、医療施策の実現化の為に政治活動を展開する。  
 ⑥ 日本医師連盟との連携  
 ⑦ 近畿各府県医師連盟(医師政治連盟)との連携  
 ⑧ 兵庫県歯科医師連盟、兵庫県薬剤師連盟との連携  
 ⑨ その他の関係団体との連携

(2) 令和2年6月21日(日)に兵庫県医師会館で開催し、平成31年度会務実績を報告、承認を受け、次いで、「平成31年度収支決算」、「本連盟顧問・参与委嘱」について、原案通り可決されました。

## 兵庫県医師連盟役員紹介

(令和2年6月21日～令和4年6月連盟定時委員総会終了日)

委員長		
松本	卓	
副委員長(2名)		
足立	光平	
鈴木	克司	
常任執行委員(9名)		
橋本	寛章	
北村	嘉郁	
西口	郁則	
橋本	彰直	
岡林	孝進	
花田	加寿子	
杉原	一樹	
三浦	正光	
杉町	正光	
執行委員(17名)		
坂本	泰三	
大門	美智子	
小野	一広	
木村	一郎	
平林	弘久	
中本	博士	
澤井	繁明	
榑田	重彦	
野々	垣真	
尾崎	公彦	
山根	光量	
藤田	宏史	
瓦井	博子	
中川	幸央	
北垣	幸央	
相馬	葉子	
林	伸樹	
会計責任者		
花田	進	
会計責任者職務代行者		
橋本	寛	
会計監督者(3名)		
井上	喜通	
高上	義雄	
高原	哲夫	
委員		
県医代議員・郡市区医師会長		





父の勧めもあり、外交官を目指そうと1年間、毎日10時間以上勉強を続け、翌年外交官試験に合格することができました。

**栗田** 国家公務員試験と外交官試験は、別になるのですか。

**高橋** 国家公務員試験は1種と2種があるのですが、外交官の場合は外務専門職試験という別枠の試験があります。国家2種相当ですが、ほかの2種試験とは違い、憲法、国際法、経済学などを論文形式の試験や時事論文や外国語試験、面接等があり、競争率は50倍以上。難関でした。

**栗田** そうでしょうか。

**高橋** 外務省入省時に希望言語の調査があり、大学で学んだ英語を含め5言語を選び、回答したのですが、どこにも書いた覚えはないにもかかわらず、いきなり人事から「君はポルトガル語だ」と言われ、頭が真っ白になりました。

こうして一からポルトガル語の勉強を始めることになりました。外務省では、まず2年間、外国語を習得する期間が研修として与えられ、ポルトガルに2年間留学しました。

ちょうどポルトガルで研修していた時に、父親が突然、肝臓がんで亡くなりました。急遽日本に帰り、喪主を務める中で、外交の道で世界の平和や日本の

発展のために尽くしたいとの決意を新たにして、アフリカのアンゴラに大使館を立ち上げるために赴任しました。

アンゴラでの生活は想像以上に大変でした。アンゴラは27年間も続いた内戦で国土は崩壊。「感染症の宝庫」と言われるような国で、マフィアや結核、エイズ等、感染症がたくさんあります。エボラ出血熱と同等の致死率があるマールブルグ病が蔓延したこともありました。私自身も、マフィア疑似症に罹り、3日くらい高熱が続き、死ぬかと思ったこともありましたが、寄生虫を宿して日本に帰国して虫下しで治したこともありませんでした。

**栗田** そのころには結婚はされていたのですか。

**高橋** ちょうどアンゴラに赴任するときに結婚し、妻はアンゴラが新婚生活でした。私は日中、大使館勤務ですが、妻の方はどこにも行くことができず一日中家にいる状態だったので、ストレスの多い生活だったと思います。

**栗田** 奥さんとはどのように知り合ったのですか。

**高橋** ポルトガルで研修中に、スペインのグラナダという町を一人で旅行をしていた時に知り合いました。妻はスペインにブラメンコの勉強に来ていま

た。その後ほとんどなくして、私はまずシンバブエに半年ほど赴任することになりました。妻はスペインに残り、その後日本に帰り、超遠距離になったのですが、当時普及し始めたスカイプ(インターネット通話)を使って連絡をとりながら、より厳しい環境のアンゴラに行くことが決まった時点で入籍することになりました。

**栗田** 外国で生活されていた奥さんだから、理解があったのでしょうか。

**高橋** そうですね。妻の存在なしにはアンゴラでの生活はなかったと思っています。

その後、ブラジルのリオデジャネイロに赴任し、そこで長女をもうけました。日本に戻って出産したのですが、生後半年ぐらいで地球の裏側に戻り、そこで子育てすることになりました。娘には6種混合や黄熱病など、日本では考えられないようなワクチンを毎週のように打ちました。かかりつけ医師をやった探だし、娘の体調が悪くなれば、仕事も中断して病院に駆けつけ、ポルトガル語の通訳をすることも度々ありました。

在外の日本人への医療体制というのは、やはり言葉の問題や医療のレベルの違いもあります。今後、在外の日本人が増えていく中で、体制を整えていく

ことは大きな課題だと思えます。

最近ではIT化や技術の進歩によって、言語を訳すことはできるようにはなってきましたが、条件が全く異なる中で、保険の問題や、途上国のように簡単に医療にアクセスができないところもたくさんあります。医師会の皆様のご知見も伺いながら、日本政府としてしっかり整えていかなくてはならない課題だと考えます。

**栗田** 最近ではIT化とか、遠隔診療とか言っていますが、やはりマンツーマンでゆっくり話を聞いて、五感を使って診察しないとわからない部分は非常に多いですね。私もロータリークラブの活動で、ネパールに病院を建てる運動に協力していて、聞いた話では、透視機器が不足していることで、機器を送っても使える人材がない。また、ベッドを送っても目的の病院に

着かない等、大変な苦労をしているようです。

**高橋** その意味では、途上国への医療分野の技術協力も重要ですね。一方、医療が進んだ日本においては、外国人への医療については課題なしとは言えません。インバウンドや在住者が増えていく中で、外国人への医療アクセスをどう整えていくかも大きな課題です。

**栗田** ご存じでしょうか、国民皆保険を何とか医師会として守ろうとしています。私も医師会活動を始めるまでは、保険はあたり前のことだと思っていましたが、医師会の仕事を始めたなら、すばらしいことだと思ふようになりました。

**高橋** 世界に冠たる日本の国民皆保険です。海外にはユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)としてどんどん広めていくと日本は積極的に推進しています。(三面につづく)



高橋光男参議院議員



(二面より)

一方、国内的には、少子高齢化が加速的に進む中、どう維持していくのかが問われています。その中で、実際に現場で医療をお支え頂いている医師会の皆様が果たされる役割が重要です。皆様のお声をしっかりと受け止めて、政治がしっかりと後押ししていかなければなりません。

**栗田** 財源的なことは、本当に難しいと思うのですが、ぜひ政治家の先生方にはいろいろな頑張っていたらいいと思います。

**高橋** 微力ですが、貢献させて頂きたいと存じます。

**栗田** 応援しています。

今、気になっているのは、マスコミや世間の人は、保険制度を守っているのは、医師が自分の権利のためだと思われるのではという事です。

**高橋** そういうことではないと思います。実際に日頃から患者



栗田義博宝塚市医師連盟委員長

さんと向き合われているのは、紛れもなく医師会をはじめとする医師の方々であり、その真摯な取り組みがあって初めてこの制度は今まで保たれてきました。ご自身でも患者さんのため、健康のために果たされてこられた皆様の役割への正当な評価なしに、この制度のこれからの議論することはできないと考えます。

分自身のそれまでを振り返って、次のように考えました。『亡き父も含めて私たち家族は兵庫で育んでいただいた。阪神・淡路大震災も経験し、その中で自分自身の存在、アイデンティティーはやっぱりこの兵庫にある』と考えた時に、兵庫の地域の皆様が私などに政治の道での活躍の期待をかけていただいたことは、重く受け止めないといけないと思えました。他の誰かでもできることかもしれませんが、途上国をはじめ外交官として培ってきた経験を生かして、これから自分のふるさと兵庫で、また、日本の未来のためにお役に立たせていただければ、挑戦させていたたく価値があるのではないかと思います。

今回の挑戦では、多くの方々にご支援をいただきました。兵庫県医師連盟の皆様にもご支援の決定もいただき、当選させていたいただくことに感謝しております。私自身、これから何をさせていたいただくのかと考えた時に、ご支援いただいた方々のご期待に応えられる政治家であらねばならないと決意しています。

これまで日本が築き上げて来た様々な仕組みが、人口減少や少子高齢化の中で大きなチャレンジに直面している中で、政治

は何より大切です。大きな岐路に立つ日本の未来を開くためには、政治の力が不可欠です。私は、外交官として諸外国の政治を見る中で、また、官僚として政治家の先生方とお付き合いさせていた中で感じたことは、政治の安定の重要性です。誤解を恐れずに言えば、民主党の政権のときには、いろんなところで混乱が生じたのも否定できないことだと思います。政治の混乱で社会を大きく後退させてしまえば、一番困るのは国民です。そういう意味では、先生がおっしゃられた国民皆保険をどう維持していくのかと考えたときに、自公の安定政権のもと、全世代型の社会保障という枠組みの中で、年金、医療、介護、子育て支援等の分野について持続可能な制度を見つけなければなりません。そのためには、現場の皆様の声が大切です。その意味でも、医師会の先生方のご指導、ご支援をお願いしたいと思います。

中村先生は、初めは医療支援をされていたのですが、それだけでは救えない方々がいて、命を救うには水が大事だということで、大規模な灌漑事業を実現して、不毛の土地に水を通すことによって緑を生み、多くの人を救われました。誠に偉大な貢献をされたと思います。それだ

### 都市区医師連盟だより

【神戸市医師連盟 東灘支部】

医師会員の声、主張を政策に反映させるためには、日頃からあらゆる機会を通じて、議員の皆様へ我々の置かれている状況、意見を伝達することが大切

と考えます。東灘区では、医師会新年会に地元選出の自民党の市会、県会、そして国会議員の先生方をお招きして、意見交換や会員との交流を図っています。

(四面につき)



羽生田たかし候補の選挙応援演説



(三画面より)

また、毎年10月には区民300名から400名が参加して当区医師会と区役所が共催する「地域医療シンポジウム」にも与野党を問わず多くの議員に参加していただき、地域医療を取り巻く現状、課題を理解、共有していただくべく努めています。その中で、昨年、地元(兵庫1区)選出の盛山正仁衆議院議員が衆議院厚生労働委員長に就任されたことは、何より心強いことであり、我々の主張、要望を政策にさらに反映していただけるものと大いに期待しています。

一方、2019年夏の参議院選挙では、地元JR摂津本山駅



盛山正仁衆議院議員と

近くに停まった羽生田たかし先生の選挙カーの前で、応援のスピーチをさせていただきました。足を止めて聴いてくれる人はほとんどいませんでした。得票につなげるために、少しでも多くの住民に関心を持ってもらえるような準備と工夫の必要性を痛感いたしました。

今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、地域の医療機関が多大な損害を被りました。地域医療の実情、要望をいち早く中央に届けるため、支部単位の医師連盟活動もより活性化すべく努力したいと思えます。

神戸市医師連盟 東灘支部長 堀本 仁王

### 自民党との 県予算編成に対する 要望の回答

令和元年9月19日に自民党県議団との意見交換を行い、令和2年度県予算編成に対する最重要事項として、「訪日外国人観光客医療に対する支援」について実現方を強く要請した。例年、年明け3月に重要事項に対する回答も含めた意見交換会が開催されていましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催は中止となり、文書での回答となった。

#### 回答

令和元年度には、「訪日外国人等に対する医療提供体制の構築に向けた検討会」を立ち上げ、外国人患者の受入拠点となる医療機関の選出等を行ったほか、補正予算により、ダブルトドム等の整備支援を行う。

令和2年度も引き続き検討会を開催し、県内医療機関での外国人患者の受入れ状況等を踏まえて受入環境の整備に向けた対策等を検討していく。

### 参議院議員 自見はなこ 活動報告



クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」対応や、緊急事態宣言の発出など異例すくめの国会となりました。厚生労働大臣政務官としての国会対応も多岐に亘りました。厚生労働委員会をはじめ、経済産業委員会、財務金融委員会、総務委員会、法務委員会、国土交通委員会、環境委員会など衆参両院の様々な委員会でのコロナ関連の質問が相次ぎ、答弁に立ちました。



北九州の門司メディカルセンターにて

新しい生活様式のもとで医療を再開していただけるよう、各種健診やワクチン接種についても適切な感染防止策を講じた上で実施するよう厚生労働省から事務連絡を發出していますが、まだまだ支援の取り組みが必要です。新型コロナウイルス感染症対策において女性や妊婦、子どもを守る取り組みについても、自民党女性局をはじめ、与野党からの声を受けて取り組みました。外出自粛や自宅待機、学校の一時休校によるDVや児童虐待の悪化を懸念して相談窓口の充実を進めたほか、妊婦が安心して仕事を休めるように男女雇用機会均等法に基づく母性健康管理措置に新型コロナウイルス感染症に関する措置を新たに規定しました。加えて、妊娠中の女性労働者等に配慮した各企業での取り組みが促進されるよう、日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本労働組合総連合会に協力要請を行いました。本予算、補正予算、第2次補正予算の成立をはじめ、厚生労働省から提出した5つの法案も全て成立させることができました。特に、第2次補正予算では医療従事者への慰労金や、医療機関・薬局等での感染拡大防止費用の補助のほか、持続化給付金や家賃支援給付金など医療機関・医療従事者を強力に支援する措置を多数盛り込むことができた。

医療機関に関する情報管理の一元化と、保健所支援についても新システムを立ち上げ、強力に進めました。厚生労働省と内閣官房IT室の連携により、全国約8,000病院の稼働状況、病床やスタッフ、医療機器・資材の確保状況等を二元的に把握して支援につなげる「新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム」(G-MIS)により、迅速な入院調整、医療機器・資材の配布支援等が可能になりました。さらに「新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム」(HERYS)も立ち上げ、患者さん本人や医療機